

## 学会員（教員）研究動向〔2002.4～2003.3〕

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
秋葉 武	論文(単独)	「NPOの『潜在的ドナー』としての共同募金会 資金インターメディアリ機能の分析から」(『パブリックリソースハンドブック 市民社会を拓く資源ガイド』, ぎょうせい) 28-39頁	2002.4
	論文(単独)	「NPOの過疎化へのとりくみにみるインターメディアリとしての役割 『樹恩ネットワーク』を事例として」(『農業と経済』第68巻第5号, 昭和堂) 163-167頁	2002.4
	学会発表 (単独)	「非営利組織(NPO)の組織間協働」(日本経営診断学会第35回全国大会, 明治大学)	2002.9
	学会発表 (共同)	分科会シンポジウム「問題あり! NPOの労働環境 新しい働き方の労働事情と提言」(きょうとNPOセンター, 京都府ほか主催「京都NPOフォーラム2003」)	2003.3
	調査報告 (共著)	『大学ボランティアセンタースタディ 立命館大学におけるボランティア教育の推進と環境整備に向けて』(学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ, 第5号, 立命館大学人間科学研究所)	2003.3
	調査報告 (共著)	『インターンシップ: サクセスとリスク 調査研究報告書』(平成14年度産業技術育成事業普及啓発委託事業, 近畿経済産業局)	2003.3
有賀 郁敏	著書(共著)	「西南ドイツにおけるトゥルネン協会運動 1840年代のシュヴァーベンを中心に」(『近代ヨーロッパの探究8 スポーツ』, ミネルヴァ書房) 145-197頁	2002.5
	論文(単著)	Sport, Öffentlichkeit und Minorität —Eine kritische Betrachtung über die Öffentlichkeit des Sports in Japan— (『立命館大学人文科学研究所紀要』 81, 立命館大学人文科学研究所) 55-75頁	2002.12
	学会発表 (単独)	Einige Überlegungen zum Sport in Japan (第5回日独スポーツ科学会議)	2002.7
生田 正幸	論文(単著)	「第6章 社会福祉における情報の活用」(古川孝順, 秋元美世, 副田あけみ編著『現代社会福祉の争点』, 中央法規) 147-176頁	2003.2
	論文(単著)	「連載 社会福祉分野におけるIT化・情報化の動向」 ~ (『月刊誌WAM』2002年7月~12月号, 社会福祉・医療事業団)	2002.7-12
	監修	インターネットサーチニュース及びインターネットサーチレポート (全国社会福祉協議会『月刊福祉』2002年4月号~2003年3月号, 全国社会福祉協議会出版部)	2002.4 ~ 2003.3
池内 靖子	論文(単著)	「近代日本における『オセロ』の翻案劇 帝国のまなざしと擬態」(『アート・リサーチ』vol.3, 立命館大学アート・リサーチセンター) 137-150頁	2003.3
伊藤 武夫	論文(単著)	「石油産業の戦後再編」(原朗編『復興期の日本経済』, 第5章, 東京大学出版会) 173-224頁	2002.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
	書評(単著)	「渋谷隆一他著『資本主義の発展と地方財閥 荘内風間家の研究』」 (『土地制度史学』第176号, (財)農林統計協会) 74-76頁	2002.7
乾 亨	論文(単著)	「高齢者の<安心・自立居住>を可能にするコレクティブタウンの成立要件に関する実践的研究 真野地区における高齢者の生活実態調査を通して」(『立命館産業社会論集』第38巻第3号, 立命館大学産業社会学会) 31-51頁	2002.12
	講演 (ゲストスピーカー)	「パートナーシップ型のまちづくり・最初の一步」京都市平成14年度若手職員研修講演会 2003年2月7日(『研修』126) 26-39頁	2003.3
遠藤 保子	調査報告 (共著)	国際交流基金フェロシップ研究題目「Research project of the experimental performance in the alternative space in Kyoto」(共同研究者 Julius Charo SHUTU, 国際交流基金最終研究報告)	2003.3
	学会発表 (単独)	「東アフリカの舞踊と音楽 ケニアを中心として」(舞踊学会 第54回大会, 武庫川女子大学)	2002.12
岡田 まり	論文(単著)	「生活問題事例とクライアント・システム」(黒木保博・小林良治・坂田周一・森本桂樹 編『ソーシャルワーク実践とシステム』, 分担執筆, 有斐閣) 1-12頁	2002.10
	論文(共著)	「ソーシャルワーカーと生活場面での相談・援助」(同上) 20-30頁	
	論文(単著)	「自己決定」「ストレスコーピング」(黒木保博・山辺朗子・倉石哲也 編『福祉キーワード ソーシャルワーク』, 分担執筆, 中央法規)	2002.7
	学会発表 (共同)	「特別養護老人ホームにおける介護サービスの質の向上に関連する要因」(『日本社会福祉実践理論学会第19回大会自由研究発表要旨集』日本社会福祉実践理論学会第19回大会, 九州保健福祉大学) 28頁	2002.5
	学会発表 (共同)	「特別養護老人ホーム職員の自己評価行動に関連する要因」(『日本地域福祉学会第16回大会報告要旨集』日本地域福祉学会第16回大会, 武蔵野女子大学) 144-145頁	2002.6
	学会発表 (共同)	「施設長自己評価を用いた施設サービス改善インパクト指数尺度の開発」(『日本公衆衛生雑誌』49巻10号 特別付録(『第61回日本公衆衛生学会総会抄録集』), 第61回日本公衆衛生学会総会, 大宮ソニックシティ(埼玉)) 721頁	2002.10
	学会発表 (共同)	「精神障害者QOL尺度の開発」(『日本公衆衛生雑誌』49巻10号 特別付録(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 第61回日本公衆衛生学会総会, 大宮ソニックシティ(埼玉)) 296頁	2002.10
	学会発表 (共同)	「精神障害者の入院とQOL」(『日本社会福祉学会第50回記念全国大会報告要旨集』日本社会福祉学会第50回記念全国大会, 日本社会事業大学) 193頁	2002.10
	調査報告書 (共同)	「精神障害者のQOLに関する研究」(『厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業 精神障害者等が快適に安全に生活するためのインフラの整備に関する研究 身体合併症, アメニティ, 身体的健康度のQOLについて 平成14年度総括・分担研究報告書』(主任研究者 渡邊能行))	2003.3

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	調査報告書 (共同)	「立命館大学産業社会学部における社会福祉実習とスーパービジョン」 (『厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業社会福祉士専門教育における現場実習教育に関する研究 平成14年度総括・分担研究報告書』社団法人日本社会福祉養成校協会)	2003.3
小川 栄二	著書(共著)	植田章他編『社会福祉労働の専門性と現実』(かもがわ出版)145-165頁	2002.4
	著書(共編著)	『自治体は高齢者介護にどう責任を持つのか』石川満他(萌文社)	2002.7
	著書(共編著)	『このまちで暮らしたい～第2集～ホームヘルプ活動実践から』(吹田市職員労働組合民生支部ヘルパー連絡会，吹田市職員労働組合)	2002.10
	調査報告 (単著)	「食」の自立支援に関する調査研究(中間報告)「食」関連サービスの利用調整実務マニュアル(「食」の自立支援のあり方に関する調査研究委員会委員長・豊川裕之他，地域保健研究会)	2003.3
	学会発表 (共同)	「ホームヘルパーの働きかけと場面再構成法による記録の意義 世田谷区対人援助研究会の試みから」(林英治・小松啓・森永伊紀，日本介護福祉学会第49回全国大会 自由研究発表)	2002.10
小澤 亘	調査報告 (単著)	「高齢者のネットワークと社会活動」(中川勝雄編『福祉情報システムと地域社会』，文部科学省科学研究費地域連携・福祉情報プロジェクト地域連携科学研究報告書)60-79頁	2003.3
	調査報告 (単著)	「日本・カナダにおける高校生たちのボランティア意識 新たなボランティア社会を目指して」(中川勝雄編，同上)185-209頁	2003.3
加藤 園子	著書(共編著)	「社会福祉政策と福祉労働」(『社会福祉労働の専門性と現実』所収，かもがわ出版)14-35頁	2002.4
	調査報告 (共同執筆)	「介護保険についてのアンケート調査(介護福祉サービス未利用者調査)」(『吹田市高齢者保険福祉計画及び介護保険事業計画にかかる高齢者等実態報告書』，吹田市福祉保健部高齢福祉推進室)43-83頁	2002.4
	論文(単著)	「福祉労働の原点と今日的課題 人権・生存権保障労働としての豊かな発展をめざして」(『いま伝えたい、福祉で働くこと』所収，全国福祉保育労働組合編，こうち書房)73-86頁	2002.9
	その他 (共編著)	『社会福祉辞典』一番ヶ瀬康子・小川政亮他監修 社会福祉辞典編集委員会編(「社会福祉の方法・技術」「社会福祉運動」など15項目，大月書店)	2002.10
草深 直臣	論文(単著)	「現代日本のスポーツ事情と学校体育の課題」(『運動文化研究』vol.20，学校体育同志会研究会)18-26頁	2002.7
國廣 敏文	翻訳書 (共訳)	デヴィッド・ヘルド編著(中谷義和監訳)『グローバル化とは何か 文化・経済・政治』(法律文化社)	2002.10
坂本 利子	論文(単著)	‘Coloured’ Identity and Cultural Transformation in Nadine Gordimer’s <i>My Son’s Story</i> (『立命館言語文化研究』14巻1号，立命館大学言語文化研究所)313-330頁	2002.5

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	論文(単著)	The Colonial Daughter's Narrative: Race, Gender and Sexuality in Nadine Gordimer's <i>The Lying Days</i> (『英文学研究』79巻1号，日本英文学会) 15-36頁	2002.9
	論文(単著)	The Colonial Discourse on Women and National Identity (『社会学部紀要』特集号，ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ) 21-30頁	2002.11
	論文(単著)	Nadine Gordimer's <i>None to Accompany Me</i> : The New Context of Freedom and Empowerment in Post-Apartheid South Africa (『立命館言語文化研究』14巻3号) 225-240頁	2002.12
	学会発表 (単独)	Women, Power and Emergent Nation in Nadine Gordimer's <i>None to Accompany Me</i> (African Literature Association 28 <sup>th</sup> Annual Meeting カリフォルニア州立大学サン・ディエゴ校)	2002.4
	学会発表 (単独)	Writing Culture: the Dynamics and Ambiguity of Ethnographic Production (APU Symposium, "Winter The Age of Uncertainty?")	2003.1
櫻谷真理子	著書(共著)	『子育て支援の現在』(ミネルヴァ書房)	2002.8
	論文(単著)	「子育て不安を抱える親への援助」(大橋喜美子編『事例でわかる保育と心理』，朱鷺書房)	2002.6
	そ の 他 (単著)	「育児困難」，「育児ストレス」，「育児不安」，SISD(乳児突然死症候群)，「子殺し・間引き」，「代謝異常」，「父親(男性)の育児参加」，「低出生体重児」，「トラウマ」，「反抗期」，「ポウルビー」，「ホスピタリズム」，「アダルトチルドレン」，「母性信仰」の項目を担当(一番ヶ瀬康子他編『社会福祉辞典』，大月書店)	2002.12
佐藤 春吉	著書(共著)	飯田哲也編『「基礎社会学」講義』(第1章「行為と集団」15-40頁，第6章「現代社会(論)」165-190頁，学文社)	2002.9
	共 編 著 書	立命館大学人文科学研究所叢書，山口定・佐藤春吉・中島茂樹・小関素明編『新しい公共性 そのフロンティア』(第16輯第1章「H.アーレントと公共空間の思想」，有斐閣) 30-58頁	2003.3
篠田 武司	論文(単著)	「ガバナンスと『市民社会の公共化』 P. ハーストのアソシエーティブ・デモクラシー論をめぐって」(山口定他編『新しい公共性 そのフロンティア』，有斐閣) 197-223頁	2003.3
	そ の 他 (単著)	「新たなスウェーデン・モデル グローバリゼーションの中の労働」(『ビヨルク』第76号，財団法人スウェーデン交流協会) 2-8頁	2002.10
	翻 訳 書 (共訳)	デヴィッド・ヘルド編著(中谷義和監訳)『グローバル化とは何か』(法律文化社，第3章「経済とグローバル化」担当)	2002.9
芝田 英昭	そ の 他	社会福祉辞典編集委員会編『社会福祉辞典』(大月書店，21項目の分担執筆)	2002.10
鈴木みどり	調 査 報 告 (共著)	UNESCO Youth Media Education Programme Global Survey (CD-ROM, UNESCO Communication Development Division (Paris))	2002.4
	国 際 学 会	UNESCO Media Literacy Workshop for 5 Asia Countries (3日集)	2002.5

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	(単独) そ の 他 (単独)	中講座)( Chularonkon University, Bangkok, Thailand ) 「メディア・リテラシーとジェンダー：行政が発する情報の質的向上をめざして」( 神奈川県男女共同参画施策推進者養成研修講座)	2002.5
	学会発表 (単独)	「国語科教育とメディア・リテラシー」( 全国大学国語科教育学会2002年夏季研究発表大会シンポジウム)	2002.5
	学会発表 (単独)	国際フォーラム「メディア・リテラシーと市民のエンパワーメント」( N P O 法人市民のメディア・フォーラム創設25周年記念国際フォーラム)	2002.8
	学会発表 (単独)	「メディア・リテラシーのグローバルな展開と実践：その基本概念と基本的条件」( 日本マス・コミュニケーション学会)	2002.8
	学会発表 (単独)	「メディア時代を生きる」( 立命館大学 / JAL プログラムアジアフォーラム)	2002.8
	そ の 他 (単独)	「メディア社会を生きる私たち なぜ、いま、メディア・リテラシーか」( 独立行政法人国立青年の家 国立淡路青年の家他主催「平成14年度淡路生涯学習フォーラム」)	2002.9
	そ の 他 (単独)	「メディアを読み解く力とは：時代の要請としてのメディア・リテラシー」( 岸和田市女性センター)	2002.10
	論文(単著)	『『ジェンダーとメディア』を学ぶメディア・リテラシー』( <i>Sexuality</i> no.008 ) 29-35頁	2002.10
	論文(共著)	“Perspectives de la Recherche en Asia”, Genevieve Jacquinet(ed.) <i>Les Jeunes et les Medias: Perspectives dela Recherche dans le Monde</i> (avec Toshiko Miyazaki), Paris: L'Harmattan, pp. 191-198.	2002.11
	そ の 他 (単独)	「メディア・リテラシーと私たち：メディア社会を生きる」( 文部科学省 / 大阪府教育委員会主催「公共図書館地区別研修」)	2003.2
高垣忠一郎	学会発表 (単独)	「教育現場におけるコンサルテーションのあり方とその意義 R 中学・高等学校の『チーム会議』の取り組みから」( 日本臨床心理学会第21回大会)	2002.9
高木 正朗	論文(単著)	「十八世紀中期東北農村の質物奉公人 陸奥国西磐井郡流峠村」( 速水融編著『近代移行期の家族と歴史』, ミネルヴァ書房) 65-99頁	2002.4
	論文(単著)	「飢饉のデモグラフィー 天保期仙台藩「郡方」人口の減少数・減少率に関する1推計」( 平成14(2002)年度科学研究費研究成果報告書(working paper))	2003.3
	そ の 他 (講演)	「江戸時代奥羽の家族・人口・社会」( 講座：「北緯三十九度線の文化学」[第2回])(一関市博物館)	2002.9
竹濱 朝美	論文(単著)	「米国連邦取引委員会の環境表示規制および『リサイクル可能』表示をめぐる審決(1)」(『立命館産業社会論集』第38巻第2号) 41-62頁	2002.9
	論文(単著)	「同上(2)」(『同上』第38巻第3号) 53-72頁	2002.12
	著書(単著)	『環境配慮製品の広告表示と環境コミュニケーション：グリーンコンシューマリズムおよび不当表示防止からみた課題』(平成14年度，財団法人・吉田秀雄記念事業財団助成研究報告書，助成テーマ「環境配	2003.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
	学会発表 (単独)	「慮製品の広告における表示規制の研究: グリーンコンシューマリズムおよび不当表示防止からみた環境広告の課題」の報告書) 155頁	2002.6
	学会発表 (単独)	「環境配慮製品の広告における不当表示規制: 消費者保護およびサステナブルな消費のための表示」(日本消費経済学会第27回全国大会, 大東文化大学, 2002年6月7日)	2002.11
	学会発表 (単独)	「企業の環境ロゴマークをめぐる環境情報の開示と広告: 自己宣言型環境ラベルの信頼性」(日本流通学会第16回全国大会, 中央大学, 2002年11月9日)	2002.11
辻 勝次	論文(単著)	「自動車工場の職場革新と新労働組織 トヨタの職場, 20年の変遷」(『立命館産業社会論集』第38巻第1号) 91-109頁	2002.6
	著書(共著)	飯田哲也編著『「基礎社会学」講義』(「仕事と職場関係」, 学文社) 95-122頁	2002.9
	学会報告 (単独)	「自動車工場の職場改革と新労働組織」(関西社会学会第53回大会)	2002.5
津田 正夫	著書 (共編著)	津田正夫・平塚千尋編『パブリック・アクセスを学ぶ人のために』(世界思想社)	2002.9
	著書(共著)	山口定・佐藤春吉・中島茂樹・小関素明編『新しい公共性そのフロンティア』(第14章「放送メディアの公共性と市民アクセス」, 有斐閣)	2003.3
津止 正敏	論文(単著)	「福祉ボランティア」(『福祉のひろば』通巻394号) 8-14頁	2002.8
	論文(単著)	「学校5日制と障害児の放課後ケア」(『障害者教育科学』第46号, かもがわ出版) 34-38頁	2003.1
	著書(共編著)	『働きざかり 男が介護するとき』(文理閣)	2003.2
	論文(単著)	「行政とボランティア活動」(『研修』126, 京都市職員研修所) 40-49頁	2003.3
	その他 (座談会)	「つなぐ機能と情報」(『市民発・大阪まちづくり 多様なセクターの共同をめざして』, (財)大阪都市協会) 59-68頁	2003.3
	報告書 (共編著)	『ボランティアの臨床社会学』(立命館大学人間科学研究所)	2003.3
	報告書 (共編著)	『大学ボランティアセンタースタディ』(立命館大学人間科学研究所)	2003.3
出口 剛司	著書(共著)	『「基礎社会学」講義』(学文社)	2002.9
	著書(単著)	『エーリッヒ・フロム: 希望なき時代の希望』(新曜社)	2002.10
	論文(単著)	「革命的個人主義と68年のマルクーゼ: 唯物論的二ヒリズムの社会的構想力」(『唯物論研究年誌』第7号, 唯物論研究協会, 青木書店) 178-200頁	2002.10
	論文(単著)	『「もつ自由」『ある自由』の社会的人間論: I. パーリン『二つの自由』概念の存在論的再構成』(片桐新自・丹辺彦彦編『現代社会学における歴史と批判(下): 近代資本制と主体性』(庄司興吉教授退官記念論文集, 東信堂)) 173-195頁	2003.3
	学会発表	「E. フロム・モデルネ論の再構成」(唯物論研究協会(第4回若手研	2003.3

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	(単独)	究会))	
仲井 邦佳	論文(単著)	“El coordinador español <i>tanto...como</i> : sus variantes y su diacronía” ( <i>Actas del XXIII Congreso Internacional de Lingüística y Filología Románica</i> , II/2, Tübingen, Max Niemeyer, 学術雑誌)	2003.3
中川 順子	調査報告	「男女高齢者の同居類型と日常行動 京都市5区の調査から」(文部科学省科学研究費地域連携・福祉情報プロジェクト成果報告書)	2003.3
	調査報告書 (共著)	『上中町男女共同参画にかかわる住民意識調査報告書』(立命館大学産業社会学部・上中町学術協定に基づく委託調査)	2002.10
仲間 裕子	論文(単著)	「ア・パイの彫り絵～土方久功とドイツ表現主義“ブリュッケ”による受容」(「南洋/エクゾティズム/表象：土方久功をめぐる」<世田谷美術館：清水久夫氏研究報告>のコメント，『言語文化研究』14巻1号，立命館大学国際言語文化研究所) 59-64頁	2002.5
中村 正	論文(単著)	「ドメスティック・バイオレンス」(『ジェンダーがわかる。』朝日新聞社・AERAMOOK) 56-57頁	2002.4
	論文(単著)	「DV加害者の非暴力化に向けた支援」(『月刊福祉』第85巻第7号，全国社会福祉協議会) 42-46頁	2002.5
	論文(単著)	「父親にできること 役割交代ではない父親の家族とのかかわり」(『生活教育』第46巻6号，へるす出版) 49-54頁	2002.5
	論文(単著)	「続・ドメスティック・バイオレンス加害者治療の試み」(『アクションと家族』第19巻2号，日本嗜癪行動学会) 195-204頁	2002.7
	論文(単著)	「アメリカにおけるDV加害者対策と日本社会への導入」(人権文化を育てる会編『DV-女性たちのSOS』分担執筆，ぎょうせい) 150-159頁	2002.7
	論文(単著)	「家庭内暴力の加害者たちとともに 非暴力グループワークの実践から」(『女性ライフサイクル研究』第12号，女性ライフサイクル研究所) 66-77頁	2002.11
	論文(単著)	「ドメスティック・バイオレンスのバタラー(加害者)への対応」(『生活教育』第46巻第11号，へるす出版) 7-12頁	2002.11
	論文(単著)	‘Regendering Batterers: Domestic Violence and Men’s Movements’ ( <i>Dislocation the Salaryman Doxa: Men and Masculinities in Contemporary Japan</i> ，分担執筆，Routledge) pp.162-179.	2002.12
	論文(単著)	「ダイバージョンによる加害者・虐待者への援助的介入」(『子ども虐待とネグレクト』第4巻第2号，日本子どもの虐待防止研究会) 232-241頁	2002.12
	論文(単著)	「関係性の病理としての家庭内暴力 ケアリングと暴力の関連で」(『学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ』第3号，立命館大学人間科学研究所) 84-95頁	2002.12
論文(単著)	「バタラーへの非暴力援助の考え方 家庭内暴力の加害男性たちへのアプローチ」(北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”編『ジェンダー白書1』分担執筆，明石書店) 92-119頁	2003.1	

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
	著書(共著)	『家族の暴力をのりこえる 当事者の視点による非暴力援助論』(かもがわ出版)	2003.1
	論文(単著)	「解説: ダニエル・ソンキン著『脱暴力のプログラム 男のためのハンドブック』」(『脱暴力のプログラム 男のためのハンドブック』(中野瑠美子訳), 青木書店) 273-291頁	2003.2
	論文(単著)	「ナラティブ・データとしてのライブトーク」(『学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ』第4号) 147-164頁	2003.3
	学会発表 (共同)	全体会シンポジウム「暴力をこえて平和と共生へ」(日本生活指導学会第20回大会, 東洋英和女学院大学)	2002.8
	学会発表 (共同)	「家族臨床とジェンダー 家庭内暴力への治療的介入」(日本心理臨床学会第21回大会, 中京大学)	2002.9
	学会発表 (共同)	「DV加害男性の自助グループ活動」(日本精神衛生学会第18回大会 中央大学)	2002.11
長澤 克重	論文(単著)	「電子商取引に関する統計整備の動向 OECDにおける議論を中心に」(『立命館産業社会論集』第38巻第2号) 19-39頁	2002.9
	学会発表 (単独)	「企業・消費者間(BtoC)電子商取引統計の国際比較」(経済統計学会第46回全国総会)	2002.9
野田 正人	著書共編著	(望月彰・桐野由美子)『子どもの権利と社会的子育て』(信山社)	2002.10
林 堅太郎	論文(単著)	「就職支援と大学教育改革」(『労働調査』406号, 労働調査協議会) 11-15頁	2003.2
	調査報告 (共著)	「ロシア極東都市経済・社会開発調査報告」(『立命館国際地域研究』21号, 立命館大学国際地域研究所) 181-202頁	2003.3
	調査報告 (共著)	「多様な主体の参加と連携による活力ある地域づくりモデル事業(舞鶴市)」(大学連携センター推進研究会)	2003.3
	その他 (単著)	「わが子への就職アドバイスはどこまですべきか」(『PRESIDENT』プレジデント社)	2003.2
	調査報告 (共著)	「新たな地域連携のあり方と大学の役割」(立命館大学総合研究機構地域情報研究センター)	2003.3
東 自由里	学会発表 (共同)	“Serbian and Japanese Perspectives on National Atrocities” (New York University, International Education Forum)	2003.3
	論文(単著)	“Okinawa Prefectural Peace Memorial Museum: A Challenge to Japan's Grand Narratives” (Ritsumeikan International Affairs, 創刊号, 立命館大学国際地域研究所) 145-162頁	2003.3
	学会発表 (単独)	“Religious Occupation during Postwar Japan: The Christian Community and Educational Institutions” (ウッドロー・ウィルソン国際学術センター, アジアプログラム主催, 米国ワシントンDC)	2002.12
	論文(単著) 学術雑誌	“Scouting in the United States: Cultivating Civic Mindedness and National Identity” (大芝亮, 大津留(北川)智恵子, Edward Rhodes 共編著, State, Nation and Ethnic Relations. International	2002.8



名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	学会発表 (単独)	<i>Symposium Series. Occasional Papers, no. 18</i> , 国立民族学博物館， 地域研究企画交流センター(JCAS)発刊) 229-248頁 “Monuments, Shrines, and Memory in Postwar Japan” <i>Worldviews: Religion, Philosophy and History in East Asia</i> (米国ニ ューハンブシャー州 Humanities Council 主催)	2002.7
ファン 黄	学会発表 (単独)	「2002 W杯報道の検証 2カ国共同開催をメディアはどう伝えたか， 人々は一連のW杯報道をどう受け入れたか」(シンポジウム『スポ ーツジャーナリズムとローカル・メディア』日本マスコミュニケーション 学会，新潟大学)	2002.7
	論文(単著)	「検証・日韓W杯報道(上)」(『放送レポート』第178号，メディア総 合研究所) 12-15頁	2002.9
	論文(単著)	「同上(下)」(『同上』第179号) 34-37頁	2002.11
	論文(単著)	「2002 W杯はどのように語られたか 試論『日韓比較』の再考：1996 年共催決定から2002開幕まで」(『立命館大学人文科学研究所紀要』 第81号) 25-54頁	2002.12
	論文(単著)	「2002 W杯と韓日関係」(原文は韓国語)(『寛薫ジャーナル』，2002年 冬号，寛薫クラブ) 73-85頁	2002.12
	論文(単著)	「2002 W杯と日本の自画像、そして韓国という他者」(『マスコミュニ ケーション研究』第62号，日本マスコミュニケーション学会) 29-39頁	2003.2
	論文(単著)	「メディア政策と公共性 古くて新しい課題とは」(佐藤春吉・山口定 編『新しい公共性 そのフロンティア』有斐閣) 310-330頁	2003.3
	学会発表 (共同)	「メディア・イベントとしての2002FIFAワールドカップ」(日本スポ ーツ社会学会第12回大会，岡山大学)	2003.3
	学会発表 (単独)	「大韓民国の自画像 2002 W杯メディア言説に表れた対外観とのかか わりを中心に」(テーマセッション「日韓ワールドカップとメディア (2) メディアスポーツとしてのワールドカップの『韓日』もしく は『日韓』共催は何をもたらしたのか」)(日本スポーツ社会学会第 12回大会，岡山大学)	2003.3
深井 純一	研究ノート (共編著)	「震災救援の最前線に立った中学生たち(その3) 1925年北但震災 における旧制豊岡中学生たちの救援奉仕活動の作文記録を発掘して 」(『立命館産業社会論集』第38巻第1号) 189-204頁	2002.6
	研究ノート (共編著)	「同上(その4)」(『同上』第38巻第3号) 175-190頁	2003.3
深澤 敦	論文(単著)	<i>Les historiens français face à la protection sociale (1950-2000), Le Mouvement Social, Numéro 200, Les Editions de l'Atelier, Juillet- Septembre, pp.129-137.</i>	2002.7
	論文(単著)	「保険的福祉国家」の変容～現代フランスにおける社会・福祉政策の展 開～(『総合社会福祉政策』第22号，総合社会福祉研究所) 107-117頁	2003.3
文 楚雄	著書(共著)	『最新実用中日対照会話語彙辞書』(周薦氏との共著)(中国・上海辞	2002.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
	翻訳(単訳)	書出版社) 「社会学の中国化の幾つかの課題について」(鄭杭生著)(『立命館産業社会論集』第38巻第1号)17-23頁	2002.6
Ian T. HOSACK	研究ノート (単著)	Moving Lives at the People's History Museum, Manchester (『立命館産業社会論集』第38巻第2号)145-155頁	2002.9
	論文(単著)	Of the People? For the People?: Ethnic minorities at the People's History Museum (『同上』第38巻第4号)35-55頁	2003.3
前田 信彦	論文(単著)	「男性の労働時間と家庭生活 労働時間の再編成に向けて」(石原邦雄編『家族と職業 統合と調整』, ミネルヴァ書房)158-181頁	2002.12
	その他 (単著)	「『中小企業の子育て支援に関する調査』報告書を読んで」(『こども未来』第370号, こども未来財団)14-15頁	2002.7
	論文(単著)	「オランダモデルから考える男女の働き方」(『ウィル』10, 愛知女性総合センター)16-17頁	2003.2
	報告(単独)	「少子高齢社会における多様なライフスタイルを可能とする働き方」(参議院国民生活・経済に関する調査会会議)	2003.2
	論文(単著)	「サラリーマンの労働時間と家庭生活」(『JIL@Work(アットワーク)』vol.12)28-31頁	2003.3
	論文(単著)	「定年と高齢期のキャリア形成」(『少子高齢社会におけるサラリーマンの生活・就業スタイルの多様化に関する研究報告書』, シニアプラン開発機構)81-97頁	2003.3
松田 博	論文(単著)	「グラムシの『有機的危機論』に関する覚書」(『立命館産業社会論集』第38巻第1号)205-215頁	2002.6
	論文(単著)	「グラムシのアソシエーション論に関する覚書」(『立命館産業社会論集』第38巻第2号)133-143頁	2002.9
	論文(単著)	「グラムシにおけるアソシエーション論の生成と展開」(『立命館産業社会論集』第38巻第3号)191-200頁	2002.12
	著書(単著)	『グラムシ研究の新展開 グラムシ像刷新のために』(御茶の水書房)全297頁	2003.2
	著書共編著	『アソシエーション革命へ』(社会評論社)	2003.3
	論文(単著)	「A・グラムシ A・レブレと『忘れられた草稿』」(『日独文化研究』第41号, 日伊協会)10-18頁	2003.3
松田 亮三	論文(単著)	「ロンドンで医療政策を学ぶ(4)」(『月刊国民医療』179号)16-17頁	2002.4
	論文(単著)	「同上(5)医療システムと『規制』」(『同上』181号)28-29頁	2002.6
	論文(単著)	「同上(6)キーワードとしての“パフォーマンス”」(『同上』182号)64-65頁	2002.7
	論文(単著)	「同上(7)今後の研究に貴重な示唆」(『同上』184号)2-3頁	2002.9
	論文(単著)	「健康と医療における公平とは」(『同上』188号)4-15頁	2003.11
	論文(共著)	松嶋紀子・森田徳子・尾方希・佐伯圭吾・松田亮三・車谷典男「全数標本を用いたわが国の出生数の時刻別分布に関する記述疫学」(『日本	2003.1

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	論文(共著)	衛生学雑誌』57巻4号)674-681頁 Noriko Morita, Noriko Matsushima, Nozomi Ogata, Keigo Saeki, Mariko Ishibashi, Hideki Komukai, Ryozo Matsuda, and Norio Kurumatani "Nationwide description of live Japanese births by day of the week, hour, and location" ( <i>Journal of Epidemiology</i> vol.12-4) pp.330-335.	2002.6
	論文(単著)	「英国の介護政策：ブレア労働党政権下の展開」(『教育と医学』51巻3号)46-53頁	2003.3
	論文(単著)	佐伯圭吾，車谷典男，国安弘基，大石元，尾方希，森田徳子，松田亮三「奈良県のがん罹患数とがん登録精度 2000年奈良県がん登録結果」(『奈良医学雑誌』54巻1号)17-25頁	2003.2
	学会発表 (単独)	「欧州の医療財政の経験から何を学びうるか(シンポジウム「医療保険財政の国際比較 日欧を中心に」)」(第26回日本医療経済学会研究大会，於金沢)	2002.9
松葉 正文	書評(単著)	Rezension: Emmeram Weis, Entstehung und Entwicklung der gesetzlichen Rentenversicherung in Japan bis 1945; die Arbeiterrentenversicherung von 1942 im Vergleich mit dem deutschen Vorbild, München 2001, 420S., in: Archiv für Sozialgeschichte,42. Band, 2002, pp.653-655.	2002
峰島 厚	論文(単著)	「障害者の地域生活支援システム構築の視点」(障害者地域生活支援システム研究会『障害者福祉改革への提言』，かもがわ出版)204-217頁	2002.5
	論文(単著)	「社会福祉基礎構造改革と支援費制度」(その1)，(その2)(『みんなのねがい』2002.7月号，全国障害者問題研究会)53-57頁 2002.8月号 53-57頁，全障研出版社)	2002.7・8
	論文(単著)	「障害者福祉における支援費制度とは何か」(上)(下)(『賃金と社会保障』1337・1338合併号，旬報社)112-132頁 1340号 21-41頁，旬報社)	2003.1・2
	論文(単著)	「支援費制度の問題点」(障害者問題研究編集委員会『障害者問題研究』38巻4号，全障研出版部)1-11頁	2003.3
	論文(共著)	「障害のある人たちの暮らしの場についての政策提言(第二次案)」(きょうされん生活施設グループホーム部会編，きょうされん)1-33頁	2002.6
森田 真樹	論文(共著)	「多文化社会科の内容編成原理」(社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』所収，明治図書)74-83頁	2003.3
	著書(共著)	「アメリカにおける社会科の成立と展開」(星村平和監修・原田智仁編『社会科教育へのアプローチ』，現代教育社)	2002.10
	学会発表 (単独)	「多文化学習からアプローチするグローバル教育」(日本グローバル教育学会シンポジウム)	2002.9
柳澤 伸司	論文(単著)	「(メディア時評)新聞の再販制度を自ら否定する値引き・景品の提供」(『ダイヤモンド・セールスマネジャー』，ダイヤモンド社)76-77頁	2002.5

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
	論文(単著)	「(メディア時評)個人情報保護法案・人権擁護法案はコンピューター時代の治安維持法・市民のメディアへの不信感を高める読売新聞の修正試案」(『同上』) 68-69頁	2002.8
	論文(単著)	「(メディア時評)人間性を破壊するデータベース・住民基本台帳ネットワークシステムの本質」(『同上』) 70-71頁	2002.11
	論文(単著)	「(メディア時評)イージス艦派遣をめぐる新聞各紙の報道姿勢」(『同上』) 62-63頁	2003.2
山口 歩	論文(単著)	「現代の風力発電技術の『経済性』について 1980年代におけるデンマークの風力発電機をめぐる」(『立命館産業社会論集』38巻1号 111-124頁)	2002.6
山下 高行	講演(単独)	Football and the Wake of Civil Society in Japan; World Cup 2002 and Soccer Voluntary Groups as a New Social Movement. (「独仏韓日W杯国際シンポジウム」, ゲストスピーカー, 仙台大学主催)	2002.5
	論文(共著)	山下高行, 坂なつこ “Another Kick Off; the 2002 World Cup and soccer voluntary groups as a new social movement” (John Horne and Wolfman Manzenriter (eds) <i>Korea, Jana and the FIFA World Cup 2002</i> , pp.149-161, London Routledge)	2002.4
	論文(単著)	「2002FIFAワールドカップとサッカーサポーター活動」(『日本の科学者』vol.37, 日本科学者会議) 10-15頁	2002.7
	論文(単著)	「グローバリゼーションとスポーツ」(有賀郁敏他著『近代ヨーロッパの探求 スポーツ』, ミネルヴァ書房) 365-387頁	2002.5
	翻訳(単訳)	「文化のグローバル化」(デヴィッド・ヘルド編(中谷義和監訳)『グローバル化とは何か』, 法律文化社) 51-93頁	2002.10
山本 隆	論文(単著)	「介護保険制度と福祉行財政」(『立命館産業社会論集』第37巻第4号) 1-39頁	2002.3
	論文(共著)	「介護保険制度の実施で介護サービスはどのように変わったのか 介護保険導入前後の比較研究」(『地域福祉情報』第119号) 10-17頁	2002.4
	論文(共著)	「介護保険制度の実施に伴う市町村財政の変化に関する実証分析」(『社会科学』第69巻) 125-158頁	2002.9
	論文(単著)	「介護保険の財政問題」(『地域福祉情報』vol.10所収) 10-16頁	2002.10
	監 訳	ノーマン・ジョンソン著『グローバリゼーションと福祉国家の変容』(法律文化社) 330頁	2002.11
	著書(単著)	『福祉行財政論 国と地方からみた福祉の制度・政策』(中央法規出版) 279頁	2002.12
	論文(単著)	「福祉国家と政府間関係 イギリスの政策状況を中心にして」(『立命館産業社会論集』第38巻第3号) 1-30頁	2003.3
	論文(単著)	「ブレア政権下のイギリス福祉行財政 地方ガバナンスの可能性を求めて」(『立命館産業社会論集』第38巻第4号) 1-19頁	2003.3
	学会発表 (単独)	演題「介護保険導入による市町村行財政の変化」(第10回地方財政学会, 於中央大学)	2002.6

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	著書(単著)	『イギリスの福祉行財政 政府間関係の視点』(法律文化社) 400頁	2003.4
	著書(共著)	『現代社会福祉の諸問題の研究 介護保険の現状と財政を中心に』(晃洋書房)	2003.4
吉田 信介	論文(単著)	「IT時代の英語教育 ネットサーチによる学習効果」(『政策科学』10巻3号(通巻23号)，立命館大学政策科学会) 121-133頁	2003.3
	学会発表(単独)	「ネットサーチによる英語教育の実践」(『第41回JACET全国大会要綱』，第41回大学英語教育学会全国大会，青山学院大学) 236-237頁	2002.9
	論文(共著)	「オンライン英語クローズテストの実践と効果」(『日本教育工学会第18回全国大会講演論文集』，日本教育工学会第18回全国大会，長岡技術科学大学) 297-298頁	2002.11
	論文(共著)	「英語ネットサーチの学習効果 情報サーチ能力・単語認識処理速度・自己啓発」(『日本教育工学会第18回全国大会講演論文集』，日本教育工学会第18回全国大会，長岡技術科学大学) 295-296頁	2002.11
	学会発表(共同)	「ネットサーチによる英語学習 情報サーチ能力・単語認識処理速度・読解能力の効果」(『第42回全国研究大会発表要綱』，外国語教育メディア(LET)第42回全国研究大会，大妻女子大学) 118-119頁	2002.8
	学会発表(共同)	「ネットワーク型英語クローズテストの実践と効果」(『第42回全国研究大会発表要綱』，外国語教育メディア学会(LET)第42回全国研究大会，大妻女子大学) 120-121頁	2002.8
リム ボン	著書(共著)	『職住共存の都心再生』(学芸出版社) 全220頁	2002.11
	その他(単著)	「資料・国会議員の京都観」(『立命館産業社会論集』第38巻第2号) 195-207頁	2002.9
	論文(単著)	「同和地区における社会資本の蓄積と住宅地区改良事業の新展開」(『立命館産業社会論集』第38巻第4号) 21-34頁	2003.3
	研究発表	「都市計画と政治」(日本建築学会大会(東海)・都市計画委員会研究懇談会)	2002.8
和田 武	論文(単著)	「21世紀の地球環境と社会発展」(『唯物論と現代』第29号，関西唯物論研究会) 2-15頁	2002.5
	論文(共著)	「風力発電所設置と原子力発電所設置計画の地域社会への影響 三重県久居市と三重県南島町を事例に」(『人間と環境』Vol.27, 5, 日本環境学会) 74-83頁	2002.6
	論文(単著)	「持続可能な社会へのエネルギー転換」(『滋賀の経済と社会』103 滋賀総合研究所) 5-11頁	2002.6
	論文(単著)	「自然エネルギー電力生産手段の住民所有 デンマークとドイツの風力発電を中心に」(『唯物論研究年誌』第7号「所有をめぐる<私>と<公共>」，唯物論研究協会) 27-52頁	2002.10
	論文(単著)	「国として採用すべき政策と制度 企業主導から住民主導の民主的政策・制度の導入を」(沢孝一郎・大嶋茂男編『エネルギー使用14%削減への挑戦』，クリーンエネルギーフォーラム) 165-177頁	2003.1
	特別報告	「ドイツの温暖化防止計画と再生可能エネルギー普及対策」(『人間と』)	2003.3

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)，頁	発行年月
	(単著)	環境』vol.29， 1，日本環境学会)12-21頁	
	そ の 他	「地球温暖化問題とエネルギー改革(1) CO2大幅削減の長期エネルギーシナリオをもと」(『福祉のひろば』 394，総合社会福祉研究所)60-64頁	2002.8
	(単著)		
	そ の 他	「地球温暖化問題とエネルギー改革(2) 市民主導での自然エネルギー普及」(『福祉のひろば』 395，総合社会福祉研究所)40-46頁	2002.9
	(単著)		
	学 会 発 表	「地方自治体における温暖化対策事例の研究～京都府城陽市と滋賀県野洲町を中心に～」(日本環境学会第28回研究発表会)	2002.6
	(共同)		
	学 会 発 表	「ドイツ『再生可能エネルギー法』の効果と影響」(日本環境学会第28回研究発表会)	2002.6
	(単独)		
	学 会 シ ン ポ ジ ウ ム	「大学における副専攻『環境論』の教育実践 大学での総合的環境教育の試み」(第2回日中環境教育情報交流シンポジウム『日中のパートナーシップによる環境教育』，日本環境教育学会)10-11頁	2002.11
	基 調 報 告	「未来への提言・市民共同発電所のめざすもの」(『2002市民共同発電所全国フォーラム・資料集』，第1回市民共同発電所全国フォーラム)34-40頁	2002.8
	(単独)		
	基 調 報 告	「住民・自治体主導による新エネルギー普及促進」(『第5回新・省エネルギー導入普及促進シンポジウムinかんさい』予稿集，新エネルギー・産業技術総合開発機構)1-10頁	2003.1
	(単独)		